

在来マス類種苗生産試験 (アマゴ種苗生産配布事業)

團 昭紀・尾田文治

平成4年10月に採卵し、繰り越した稚魚を継続飼育し、春稚魚(平均体重4.3g)として4月現在109,500尾を生産した。この内、平成5年5月に河川放流用として50,000尾、養殖用種苗として35,000尾を有償配布した。採卵用親魚は、平成4年10月に採卵し、親魚候補として継続飼育し、平成5年2月、3月にせっそう病ワクチンの防疫処理を施して10月まで養殖した。なお、採卵時における雌親魚の平均体重は400gであった。

採卵には、雌魚1,040尾から1,000,000粒(1尾平均961粒)の卵を得て発眼卵643,000粒(発眼率64%)を生産した。このうち民間養殖業者に523,000粒を有償配布した(表1)。

小歩危淡水養魚場における飼育水は、現在2水系の水が使用され、このうち1号水系は、谷合いの表流水を集めて使用し平成5年4月～平成6年3月における水温は7.7～16.4の間で変動した。2号水系は、小河川の表流水を取水し、水温は2.4～20.4の間で推移した。水系としては例年同様1号水の方が水温変動も少なく量的にも安定していた。

表1 平成5年度アマゴ採卵状況

採卵用親魚(雌)	1,040尾
”(雄)	600尾
採卵数	1,000,000粒
1尾当たり採卵数	961粒
発眼卵数	643,000粒
発眼率	64%
養殖用種卵(売却)	523,000粒
春稚魚用発眼卵	120,000粒
”浮上魚	100,000粒
浮上率	83.3%